



P-GW バッファリングメカニズム

- [機能の概要と変更履歴 \(1 ページ\)](#)
- [機能説明 \(2 ページ\)](#)
- [機能の仕組み \(2 ページ\)](#)
- [P-GW バッファリングメカニズム機能の設定 \(2 ページ\)](#)

機能の概要と変更履歴

要約データ

該当製品または機能エリア	P-GW
該当プラットフォーム	• ASR 5500 • VPC - DI • VPC - SI
機能のデフォルト	有効：設定が必要
このリリースでの関連する変更点	N/A
関連資料	• <i>Command Line Interface Reference</i> • <i>P-GW Administration Guide</i>

マニュアルの変更履歴

改訂の詳細	リリース
このリリースでは、P-GW によるバッファリングメカニズム機能がサポートされています。	21.23
最初の導入。	21.14

機能説明

Default-Bearer-QoS の変更が保留状態の場合、P-GW は最大 2 つのポリシー（PCRF）メッセージをバッファに保存できます。Presence Reporting Area（PRA）関連のコールフローでは、ベアラ更新応答（UBResp）が保留状態のときに 2 つ以上のメッセージを受信できます。

P-GW バッファリングメカニズム機能により、P-GW は UBResp を待機中に、PCRF から受信した RAR や CCA-U をスムーズに処理できます。UBResp が受信されると、保留中のメッセージが P-GW のバッファキューから取得され、後続処理が実行されます。

機能の仕組み

アクティブ課金サービス（ACS）モードでは、バッファサイズを増やすために CLI コマンド **pending-buffer-size** が追加されました。デフォルトベアラ QoS の変更が保留状態の間は、P-GW が UBResp メッセージを受信するまで、PCRF メッセージがバッファされます。

P-GW バッファリングメカニズム機能の設定

デフォルトベアラ QoS の変更ステータスが保留中の場合に、PCRF メッセージを保存するバッファサイズを大きくするには、次の設定を使用します。

configure

```
active-charging service service_name
  policy control def-bearer-qos-change pending-buffer-size buffer_size
end
```

注：

- **def-bearer-qos-change**：デフォルトベアラ QoS 変更パラメータを設定します。
- **pending-buffer-size buffer_size**：デフォルトベアラ QoS の変更が保留中の場合に、PCRF メッセージを保存するバッファサイズを指定します。buffer_size は 2 ～ 4 の整数です。
設定されている最小値は 2、最大値は 4 です。
- **no policy control def-bearer-qos-change**により、コマンドがデフォルト値に設定されます。
デフォルトは 2 です。
- ほとんどの使用例では、デフォルト値で十分です。ただし、使用例に基づいて、メモリ使用量を考慮し、それよりも高い値を設定する必要があります。
- CLI コマンドは、新しいコールに対して有効になります。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。